P2-043

質的調査による小学校養護教諭の多職種連携における課題の検討

三上 眞美[1]、古川 恵美[2]、森島 正子[3]、
歌門 里佳[4]、石崎 優子[5]、金子 一成[5]

[1]大阪市立平野南小学校
[2]畿央大学教育学部
[3]寝屋川市立啓明小学校
[4]大阪市立みどり小学校
[5]関西医科大学　小児科学講座

【目的】
近年、児童生徒が抱える現代的健康課題は多様化・複雑化し、養護教諭は、児童生徒が健康な生活を送るために、その専門性を生かした対応や、他の教職員や地域と連携する役割を期待されている。本研究は、養護教諭が新人教護教諭に伝えたいと思う連携の実際から、他の教職員や多職種との連携における課題を明らかにすることを目的とする。
【方法】
本研究に同意を得た15年以上の経験のある小学校養護教諭3人を対象とし、新人養護教諭に伝えたいと考える「連携している他の教職員や多職種」「連携内容や状況」「連携時の思い」について半構成的面接調査を行った。面接は各60分程度とし、録音したデータから逐語録を作成し、コード化、カテゴリー化を行った。
【結果】
1）学校内での連携：＜応急処置及び医療機関受診の情報の共有＞＜担任の学級経営に合わせた支援＞＜経験年数を考慮した担任への支援＞＜迅速な管理職との連携＞＜発達障害や不登校の児童支援をスクールカウンセラーと連携＞＜アレルギー対応について栄養教諭や給食主任（教諭）との連携＞＜円滑な健康診断実施のための学校医・学校歯科医との連携＞＜円滑な健康診断実施のための教職員との連携＞の8カテゴリーが抽出された。2）地域における連携：＜主治医（アレルギー、発達障害、不登校）との連携＞＜地域の民生委員・主任児童委員との連携＞＜他校の養護教諭との情報共有＞＜気になる児童の支援を中心とした進学先の中学校との連携＞の4カテゴリーが抽出された。
【考察】
養護教諭は、けがの対応やアレルギー対応等の緊急時に、校内で連携する必要性を強く感じており、管理職に迅速に報告している様子が明らかになった。また、担任の経験年数や学級経営の様子も考慮し、教員への支援・連携を行っていた。地域における連携としてコードが最も多かったのが主治医との連携であった。地域の人的資源との連携、コミュニケーションの工夫等、養護教諭の専門性を生かした連携の実態が明らかになった。また、貧困家庭や被虐待児童への対応では、福祉の視点からの支援も必要であり、多職種との連携をさらに進めていかねばならない。今後、多くの事例を集めて検討して行く必要があると考える。
【結語】
養護教諭が多職種との連携をすすめていくためには、それぞれの強みを生かしたコーディネート力が不可欠であり、その役割を果たすことのできる人材育成が必要である。

Presented by Medical*Online